

第167回エイズ動向委員会 委員長コメント 《R8年 第1・2四半期》

【概要】

1. 今回の報告期間は、以下の2四半期
○ 令和8年第1四半期…令和7年12月29日～令和8年3月29日
以下 (R8Q1)、前年同四半期を (R7Q1)

○ 令和8年第2四半期…令和8年3月30日～令和8年6月28日
以下 (R8Q2)、前年同四半期を (R7Q2)
2. 新規HIV感染者報告数は (R8Q1) 173件 (R8Q2) 165件
(R7Q1) 148件 (R7Q2) 156件
3. 新規エイズ患者報告数は (R8Q1) 52件 (R8Q2) 87件
(R7Q1) 52件 (R7Q2) 67件
4. HIV感染者とエイズ患者を合わせた新規報告数は
(R8Q1) 225件 (R8Q2) 252件
(R7Q1) 200件 (R7Q2) 223件

【感染経路・年齢等の動向】

1. 新規HIV感染者：
○ 同性間性的接触によるものが (R8Q1) 115件 (R8Q2) 110件
(新規HIV感染者報告数の (R8Q1) 約66% (R8Q2) 約67%)

○ 異性間性的接触によるものが (R8Q1) 26件 (R8Q2) 25件
(新規HIV感染者報告数の (R8Q1) 約15% (R8Q2) 約15%)
そのうち (R8Q1) 男性21件：女性5件
(R8Q2) 男性22件：女性3件

○ 静注薬物によるものは (R8Q1) 0件 (R8Q2) 0件
○ 母子感染によるものは (R8Q1) 0件 (R8Q2) 0件

○ 外国国籍のものは (R8Q1) 50件 (R8Q2) 52件
(新規HIV感染者報告数の (R8Q1) 約29% (R8Q2) 約32%)
そのうち (R8Q1) 男性48件：女性2件
(R8Q2) 男性50件：女性2件

○ 年齢別では、20～30歳代が多い。

2. 新規エイズ患者：

- 同性間性的接触によるものが (R8Q1) 27 件 (R8Q2) 36 件
(新規エイズ患者報告数の (R8Q1) 約 52% (R8Q2) 約 41%)
- 異性間性的接触によるものが (R8Q1) 7 件 (R8Q2) 20 件
(新規エイズ患者報告数の (R8Q1) 約 13% (R8Q2) 約 23%)
そのうち (R8Q1) は男性 5 件：女性 2 件
(R8Q2) は男性 16 件：女性 4 件
- 静注薬物によるものは (R8Q1) 1 件 (R8Q2) 1 件
- 母子感染によるものは (R8Q1) 1 件 (R8Q2) 0 件
- 外国国籍のものは (R8Q1) 9 件 (R8Q2) 24 件
(新規エイズ患者報告数の (R8Q1) 約 17% (R8Q2) 約 28%)
そのうち (R8Q1) 男性 7 件：女性 2 件
(R8Q2) 男性 22 件：女性 2 件
- 年齢別では、30～40 歳代が多い。

【検査・相談件数の概況（令和 8 年 1 月～6 月）】

1. 保健所等における H I V 抗体検査件数及び H I V 郵送検査件数は
(R8Q1) 22, 771 件 (R8Q2) 24, 037 件
(前年同四半期 (R7Q1) 26, 434 件 (R7Q2) 26, 850 件)

<上記 内訳>

保健所等（直営実施）における H I V 抗体検査件数は
(R8Q1) 14, 462 件 (R8Q2) 14, 798 件

自治体実施の保健所等以外（委託実施）の検査件数は
(R8Q1) 7, 763 件 (R8Q2) 8, 590 件

郵送検査の件数は
(R8Q1) 546 件 (R8Q2) 649 件

2. 保健所等における 相談件数は (R8Q1) 14, 760 件 (R8Q2) 14, 934 件
(前年同四半期 (R7Q1) 17, 488 件 (R7Q2) 17, 948 件)

【献血の概況（速報値：令和 8 年 1 月～6 月）】

1. 献血件数は 2, 474, 554 件
2. そのうち H I V 抗体・核酸増幅検査陽性件数は 18 件
10 万件当たりの陽性件数は 0. 727 件

【まとめ】

令和8年第1・2四半期においては、保健所等における検査件数が減少に転じた一方で、H I V感染者とエイズ患者を合わせた新規報告数は前年同四半期に比べて増加した。

1. 新規H I V感染者報告数は、前年同四半期に比べ、第1四半期（+約17%）は増加、第2四半期（+約6%）はわずかに増加した。新規エイズ患者報告数は、前年同四半期に比べ、第1四半期は横ばい、第2四半期（+約30%）は増加した。
2. 新規H I V感染者報告数は20～30歳代、新規エイズ患者は30～40歳代の報告数が多く、これまでの傾向と同様である。
3. 保健所等におけるH I V抗体検査件数及びH I V郵送検査件数は、前年同四半期に比べ、第1四半期（-約14%）、第2四半期（-約10%）共に減少した。
保健所等における相談件数は、前年同四半期に比べ、第1四半期（-約16%）、第2四半期（-約17%）共に減少した。
4. 新型コロナウイルス感染症流行の影響により減少したと考えられる令和2、3年の保健所等での検査件数は、令和4年から増加に転じたが、令和6年から伸びが停滞し、令和8年第1四半期、第2四半期では前年同期比で減少に転じている。検査件数は依然として新型コロナウイルス感染症流行以前の水準を下回っており、引き続き検査件数の増加を図る必要がある一方で、その評価に当たっては検査件数の増減のみならず、検査体制や受検者層の変化等も踏まえた慎重な検討が必要である。
5. 新規H I V感染者報告数が増加した一方で、保健所等での検査件数が減少したことを考慮すると、保健所等以外で検査を受ける機会が増加している可能性もあり、今後の検査動向を注視していく必要がある。
6. 新規エイズ患者報告数について、前年同四半期と比べると増加した。保健所等でのH I V検査件数が新型コロナウイルス感染症流行以前の水準に回復していないことから、エイズを発症するまで診断を受けていなかった患者が増えている可能性があるため、今後の状況を注視していく必要がある。
7. 早期診断は、個人においては早期治療の開始、社会においては感染の拡大防止に結びつくことから、都市部・地方部を問わず全国の各地域において、H I V感染リスクのある方は国籍に関わらず、引き続き保健所等における無料・匿名の検査・相談を積極的に利用していただきたい。

第167回エイズ動向委員会 委員長コメント
《令和7年 HIV感染者・エイズ患者の年間新規報告数（確定値）》

【概要】

1. 今回の報告期間は、令和7年1月1日～12月31日の1年間
2. 新規HIV感染者報告数は、624件（過去20年間で、1番目に少ない報告数）
3. 新規エイズ患者報告数は、266件（過去20年間で、2番目に少ない報告数）
4. HIV感染者とエイズ患者を合わせた新規報告数は890件
（過去20年間で、2番目に少ない報告数）

【感染経路・年齢等の動向】

1. **新規HIV感染者：**
 - 同性間性的接触によるものが404件（全新規HIV感染者報告数の約65%）
 - 異性間性的接触によるものが91件（全新規HIV感染者報告数の約15%）
 - 静注薬物によるものは0件
 - 母子感染によるものは1件
 - 外国国籍のものが157件（全新規HIV感染者報告数の約25%）
 - 年齢別では、20～30歳代が多い。
2. **新規エイズ患者：**
 - 同性間性的接触によるものが139件（全新規エイズ患者報告数の約52%）
 - 異性間性的接触によるものが52件（全新規エイズ患者報告数の約20%）
 - 静注薬物によるものは0件
 - 母子感染によるものは0件
 - 外国国籍のものが56件（全新規エイズ患者報告数の約21%）
 - 年齢別では、30～50歳代が多い。

【検査・相談件数の概況】

1. 保健所等におけるHIV抗体検査及びHIV郵送検査件数は107,083件
（過去20年間で、5番目に少ない件数）
2. 保健所等における相談件数は73,359件
（過去20年間で、4番目に少ない件数）

《まとめ》

1. 令和7年の新規HIV感染者報告数は、令和6年と比べわずかに減少（-約6%）した。令和7年の新規エイズ患者報告数は、令和6年と比べ減少（-約20%）した。新規報告数全体に占めるエイズ患者報告数の割合は、依然として約3割で推移している。保健所等での検査件数の伸びが停滞していることも留意しつつ、今後の状況を注視していく必要がある。
2. 新規HIV感染者の感染経路は、性的接触によるものが約79%（うち約82%が同性間）、新規エイズ患者では約72%（うち約73%が同性間）となっている。また、新規HIV感染者・新規エイズ患者ともに、男性が全体の9割を超えている。

3. 保健所等におけるH I V抗体検査及びH I V郵送検査件数は、前年に比べおおむね横ばい（約2%）である。今回の報告からH I V郵送検査件数を新たに追加したところであり、検査件数の解釈については、今後の推移を注視しつつ慎重に検討していく必要がある。保健所及び自治体におかれては、引き続き早期診断につながる検査機会の確保に努めていただきたい。
4. 献血時のH I V抗体・核酸増幅検査における10万件当たりの陽性件数は令和6年と比べて減少した。しかし、依然として陽性件数があることを踏まえると、H I V感染リスクがある方は、保健所等での無料・匿名検査や医療機関による検査を受けていただきたい。
5. H I V感染症は予防可能な感染症であり、適切な予防策をとることが重要である。また、エイズ発症予防のためには、早期診断と早期治療が重要である。感染予防と早期診断は、社会における感染の拡大防止にもつながることから、都市部・地方部を問わず全国の各地域において、梅毒などの性感染症を含め、保健所等での無料・匿名の検査・相談や医療機関による検査を積極的にご利用いただきたい。